

CO-2-i-02Y	<b>生物系実習Ⅲ</b>	第2学年	後期 必修	1単位
<b>担当者</b>	亀井、小林、成田、武藤、輪千、池田、清水、千葉、森、葛巻、酒井、芝崎、松本、河田、田口			
<b>一般目標 (GIO)</b>	薬物作用について個体、器官、細胞レベルで理解し、各臓器の機能調節の基礎となる手技および理論を習得する。			
<b>到達目標 (SBOs)</b>	代表的な細胞および組織を観察できる。 実験動物で代表的な薬物投与方法を実施できる。 代表的な器官または臓器の機能を観察できる。 肝・腎疾患・心疾患等に作用する代表的な薬物の投与と薬効薬理、薬物動態に基づいた判断ができる。 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			
<b>受講心得・準備学習等</b>	事前に実習書をよく読み、内容を理解したうえで実習にあたること。			
<b>事後学習・復習等</b>	実習後、実験結果をまとめ、他の教科書を参考にして考察を行い、報告書に記入すること。			
<b>オフィスアワー</b>	平日（月～木）18時～19時またはメールでも対応可とします。			

### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		実習		
回	項目	内容	担当者	SBOコード
1	実習講義	ガイダンス	教育実習センター、	
2	実験動物への薬物投与とマウスの解剖 血球細胞の観察	マウスへの代表的な薬物投与を行う。 マウスを解剖し、外形の観察および頭部、頸部、胸部、腹部の観察を行う。顕微鏡で血球細胞を観察する。	教育実習センター、他	e1(1)-①-1~9 e1(1)-②-1~3 e1(4)-4 e2(1)-①-4 e2(1)-②-3 e2(1)-③-12・13 e2(3)-①-6
3	循環器系の薬理	自律神経作用薬の薬理		
4	筋弛緩、痙攣の薬理	筋弛緩薬・抗痙攣薬の運動神経系・中枢神経系に対する効果		
5	催眠薬・抗不安薬・抗うつ薬の薬理	催眠薬・抗不安薬・抗うつ薬の中枢神経系に対する効果		
6	鎮痛薬の薬理	鎮痛薬の中枢神経系に対する効果		
7	腎臓と尿路の疾患、生殖器疾患、呼吸器、胸部疾患、内分泌系疾患、代謝性疾患の薬理	各疾患に関する症例について、必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考察する。		

<b>成績評価の方法</b>	実習技能 50%、実習レポート 20%、演習として SGD におけるプレゼンテーションと質疑応答での実験内容および実験・研究活動に必要な知識に関する把握・理解 30%の割合で評価する。
<b>成績評価の基準</b>	技能の習得、レポート、プレゼンテーションと質疑応答について個別に評価し、各項目 60%以上を合格とする。実習中に習得できなかった技能については追実習でフィードバックを行う。
<b>教科書</b>	実習センターで編集した実習書を使用する。
<b>参考書など</b>	随時紹介